



性同一性障害をご存じですか

性別は男女2種類に単純に分けられると考えられがちですが、『性』には、生物学的なもの、自分の性をどのように意識するのかというものの2つの側面があります。

体は女性でありながら「自分は男であり、本当は男として生きるのがふさわしい」と考えるような現象を『性同一性障害』と呼びます。性同一性障害の方は、このような性別の不一致から悩んだり、気持ちが不安定になったりすることが少なくありませんが、周りの人に相談しても理解してもらえないことが多いようです。

平成25年、岡山大学病院が調査したところ、性同一性障害の方の6割が自殺を考え、3割が自傷や自殺未遂、不登校の経験があるという結果が出ました。

性同一性障害に対する正しい理解に努め、一人ひとりの個性や違いを尊重することが求められています。

エルジービィティ
LGBTという言葉を
聞いたことがありますか

私たちの姿、価値観、感情などが人によって異なるように、人間の性のあり方も多様です。

『LGBT』とは、『女性同性愛者』(Lesbian)、『男性同性愛者』(Gay)、『両性愛者』(Bisexual)、『トランスジェンダー』(Transgender)、生まれたときの性とは違う性で生きる人・生きたいと望む人の各語の頭文字をとった表現です。人口に占める割合が少ないことから、

『性的少数者』と言われることもあります。

国内では、LGBTへの理解が進まず、差別やいじめがあるのが現状です。そのため、LGBTであることを隠して生活している人も少なくありません。

100人いれば、100通りの個性があります。本人はもとより、全ての人が正しい知識をもつことが大切です。

誰もが自分の『性』を尊重し、自分らしく生きることができるようにするためには、生物学的な男女の性差やLGBTを理由とした不当な差別など、『性』による偏見や差別のない社会の実現が必要です。

家庭内のモラハラで
悩んでいませんか

『モラハラ』は、モラル・ハラスメントの略で、言葉や態度によって人の心を傷つける精神的な暴力や虐待のことです。

例えば、「お前には価値がない」、「何をやらせても満足にできない」、「お前は駄目な人間だ」などと言ったり、話しかけても無視したりして、相手を精神的に追い詰めることはモラハラにあたります。

また、妻から夫に対して、「臭いから近寄らないで」などと言ったり、子どもに夫の悪口を吹き込むといった行動もモラハラと言えます。

昨今、家庭内のモラハラ被害が増えてきているといわれています。たとえ夫婦であっても親子であっても、モラハラは許されるべきことではありません。モラハラ被害者は、「この人を怒らせないようにしなければ」と常に加害者の顔色をうかがい、自分の安全を守ることに必死になります。その状況が続くとストレスをため込み、心身に重大な影響を与え、自律神経失調症やうつ病、深刻な精神障がいとなり、自殺に至るケースも見られます。

モラハラ被害者の中には、「私

が悪い」と自分を追い込んでしまう人もいます。まずは自分が被害者であることに気付くことが重要です。市は、モラハラや家庭内暴力などの市民相談窓口を設けていますので、「もしかしたらモラハラを受けているかも」と感じている方は、ぜひ相談してください。

誰もが自分らしく
生きられる社会を目指して

市は、市民相談窓口を設けているほか、性別による雇用や労働条件の格差などの労働問題解決のため、連合北海道登別地区連合会が行う労働相談を支援しています。一人で悩まず、困ったことがあったらすぐに相談してください。

互いの性別や個性を認め合い、男女が共に仕事や子育てに参画でき、私たち一人ひとりが豊かに暮らすことのできる男女共同参画社会を目指しましょう。

◎市民相談 市民相談室(市民サービスグループ内) ☎2139

◎無料労働相談 連合登別

☎3337

▼問い合わせ
市民サービスグループ

☎2139